



東京文化資源会議年報 2025 年度

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance



東京文化資源会議年報 2025 年度

目次

① 東京文化資源区構想（半径 3 キロ圏地図 第4版）.....	6
② 東京文化資源会議活動マップ（第 9 版）.....	7
③ 活動中のプロジェクトチーム等一覧	8
④ 活動実績（2014 年 6 月～）	9
⑤ 神保町の夜から始めるプロジェクト	14
⑤ -1. プロジェクトチームの編成と定例会議の開催	14
⑤ -2. 神保町未来ビジョンの策定と年次計画	15
⑤ -3. 神保町文化発信会議の発足とシンポジウムの開催	18
⑤ -4. 神保町夜学	20
⑤ -5. 神保町モデル創出のための実態調査	21
⑤ -6. 神保町モデル創出のためのパイロット事業	22
⑤ -7. フォーラム「神保町の街並み保全と活用」の開催	25
⑤ -8. ホームページの開設	26
⑥ 2024 年度プロジェクトチーム等活動報告	28
⑥ -1. 湯島神田上野社寺会堂研究会と崖東夜話	28
⑥ -2. 台東北部整備構想	30
⑥ -3. 広域秋葉原作戦会議	31
⑥ -4. 出版委員会	32
⑥ -5. ひじりばし博覧会 2024・2025：神保町特集	33
⑦ 2023 年度収支報告及び会計監査報告	38
⑦ -1. 2024 年度収支報告（一般会計・特別会計）	38
⑦ -2. 2023 年度会計監査報告	40
⑧ 2025 年度事業計画案及び収支計画案	41
⑧ -1. 2025 年度事業計画	41
⑧ -2. 2025 年度収支計画	42
⑨ 東京オリンピック文化プログラム推進に関わる4者協議会規約	43
⑩ 役員名簿（2025 年 4 月 1 日現在）	44
⑪ 賛助会員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）	45
⑫ 東京文化資源会議規約（2023 年 4 月 1 日発効）	46

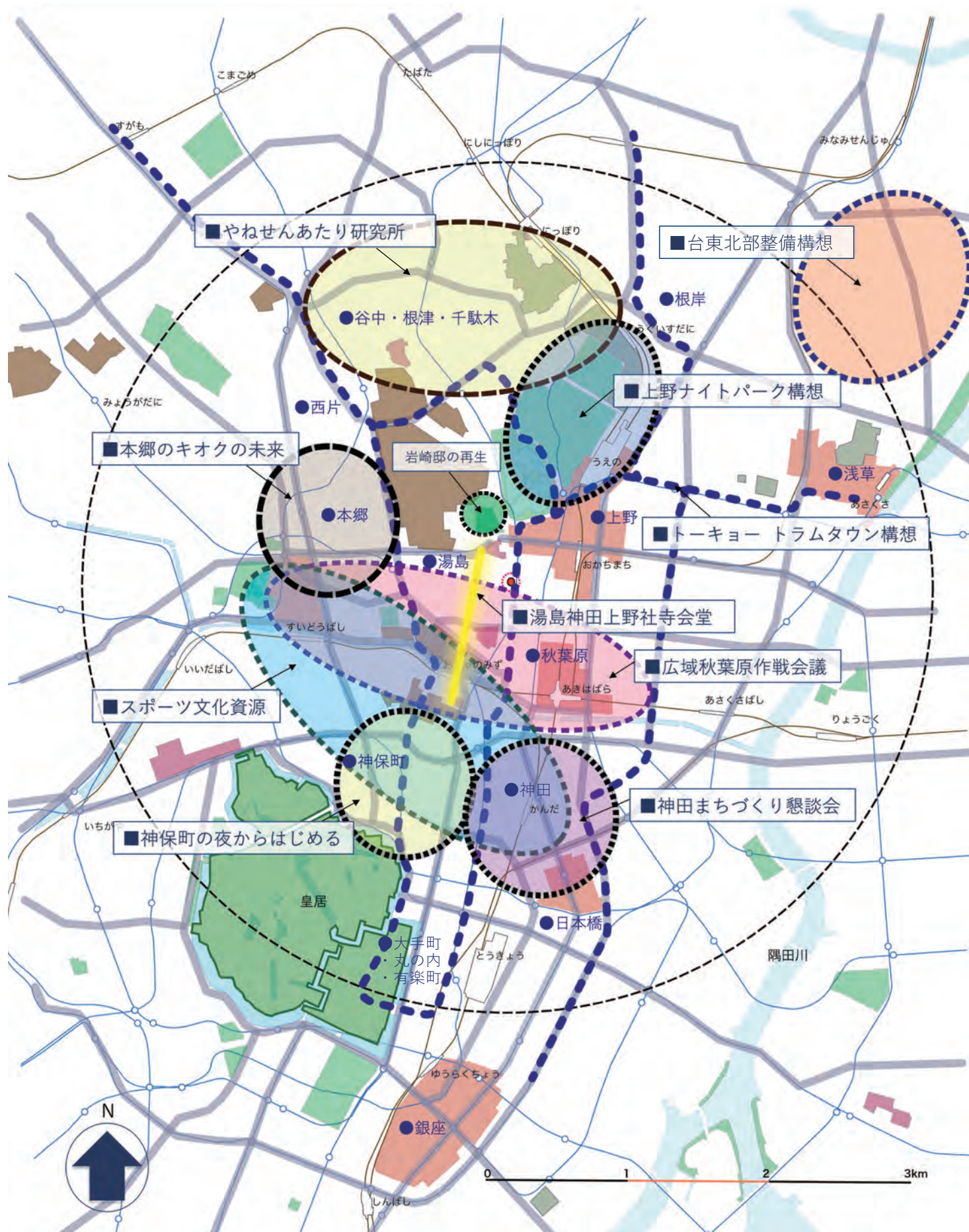
東京文化資源区構想（半径3キロ圏地図 第4版）

2025年4月



東京文化資源会議活動マップ（第9版）

2025 年 4 月



活動中のプロジェクトチーム等 一覧

2025 年 5 月 31 日 現在

*PM：プロジェクトマネージャーの略称

<プロジェクトチーム>

1. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）
2. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
3. トーキョートラムタウン構想（中村文彦座長、中島伸 PM）
同台東北部整備構想特別チーム（仮称）（小林正美座長、中村文彦副座長）
4. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、井上奈智 PM）
5. 神保町の夜からはじめる（柳与志夫座長）

<委員会等>

- 上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 出版委員会（沢部均委員長）

<千代田・文京・台東 3 区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

<関連協力団体>

- 非営利芸術活動団体コマンド N
- 神保町未来会議

東京文化資源会議 活動実績（2014 年 6 月～）

2025 年 5 月 31 日 現在

2014 年

- ・ 第 1 回東京文化資源区構想策定調査委員会（6 月 6 日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10 月 22 日）

2015 年

- ・ 東京文化資源会議設立総会（2 月 23 日）、会議発足（4 月 1 日）
- ・ 『東京文化資源区構想報告書』発行（5 月）
- ・ 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5 月 21 日）
- ・ 第 1 回役員会・賛助会員懇親会（6 月 18 日）
- ・ 2015 年度第 1 回総会（6 月 29 日）
- ・ 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8 月 20・21 日）：協力イベント
- ・ 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9 月 28 日）
- ・ 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10 月 4 日）：関連企画
- ・ 会員向けエクスカージョン「CTN を周ってみる」（10 月 17 日・24 日）
- ・ 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11 月 9 日）～ no.5（2016 年 2 月 14 日）
- ・ 第 1 回東京ビエンナーレ企画委員会（11 月 25 日）
- ・ 第 1 回文化資源連携ビジョン策定委員会（12 月 3 日）
- ・ 「オズマガジン Meets 2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12 月 13 日）

2016 年

- ・ 「三区文化資源地図協議会」発足（1 月 1 日）
- ・ 文化資源地図ファブ PT 第 1 回会合（1 月 21 日）
- ・ 公開シンポジウム no.2「2030 東京ビジョン：3 区長、大いに語る」（2 月 4 日）：朝日新聞社共催
- ・ 国際連携チーム（ILT）発足（3 月 9 日）
- ・ まちの作戦会議@谷中 P 成果発表会（3 月 13 日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3 月 24 日）
- ・ 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3 月 25 日）
- ・ フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4 月 22 日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5 月 25 日）
- ・ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6 月 1 日）
- ・ 湯島神田社寺会堂プロジェクト第 1 回検討会（6 月 8 日）
- ・ 『第 2 回公開シンポジウム報告書』発行（6 月 14 日）
- ・ 2016 年度第 1 回総会（6 月 23 日）
- ・ 第 1 回神田まちづくり懇談会（6 月 27 日）
- ・ 第 1 回文化プログラム推進協議会（7 月 6 日）
- ・ フォーラム no.2「上野スクエア計画第 1 回フォーラム」（8 月 23 日）
- ・ トーキョートラムタウン構想第 1 回勉強会（10 月 6 日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10 月 7 日）
- ・ 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10 月 19 日）
- ・ フォーラム no.3「上野スクエア計画第 2 回フォーラム」（10 月 21 日）
- ・ 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12 月 5 日）
- ・ スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12 月 12 日）

2017 年

- ・ 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3 か国版で発行（4 月 1 日）
- ・ 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4 月 11 日）
- ・ 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3 区文化資源地図ファブ PT）
- ・ ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5 月 30 日）

- ・ 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- ・ 第1回広報委員会（5月31日）
- ・ 2017年度第1回総会（6月30日）
- ・ 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）
- ・ 特別賛助会員懇親会（7月7日）
- ・ 第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- ・ フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて ― 湯島神田社教会堂検討会」（10月17日）
- ・ 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社教会堂プロジェクト」（11月14日）
- ・ 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かす ― 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 ―」（11月24日）

2018年

- ・ 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- ・ 帝都物語第1回トークセッション（地図ファブ PT）（6月11日）
- ・ 2018年度第1回総会（7月2日）
- ・ 第1回社教会堂塾開催（7月4日）
- ・ 2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- ・ 公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- ・ 関連企画：東京ビエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ビエンナーレ』を考える」（9月29日）
- ・ 公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- ・ 帝都物語第2回トークセッション（地図ファブ PT）（10月18日）
- ・ フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を実践する」（10月31日）
- ・ 東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神 ― 重層化する都市の文化資源を愉しませる ―」（12月14日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.1「ライブエンターテインメント特区を考える」（12月15日）

2019年

- ・ フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性 ―『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみ ―」（1月19日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想 ― スローモビリティが変える東京の都市生活」（2月18日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- ・ 第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- ・ 広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- ・ 第1回総合戦略チーム会議（5月9日）
- ・ 新事務所開き（6月12日）
- ・ トークショー「街を更新する小さなパブリックスペース ～神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」（社教会堂研究会）（6月21日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）
- ・ 2019年度第1回総会・上野関連プロジェクト報告会（7月11日）
- ・ アーツ&スナック運動（9月20日、21日）
- ・ 公開シンポジウム no.11「時層する東京と社教会堂」（11月6日）
- ・ 第1回東京トラムタウン構想委員会開催（12月2日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.4「スローモビリティで楽しいアキバ」（TTT 構想 PT との共催）（12月7日）

2020年

- ・ デジタルアーカイブ・ワークショップ（日比谷図書文化館）（2月1日）
- ・ やねせんあたり研究所第1回研究・活動発表会（2月24日）
- ・ 緊急特番「# Save your AKIBA」（5月20日）

- ・ オンライン発表&討論会「大学生と考える上野の都市デザイン2題」（6月11日）
- ・ ひじりばし博覧会 2020（ソラシティ）（7月24日）
- ・ 広域秋葉原放送局第1回放送（8月7日）
- ・ ガイトウスタンド開設（10月14日～11月28日）
- ・ 崖東夜話第一夜（神田明神ほか6施設）（10月27日）
- ・ 第1回上野連携構想推進委員会開催（12月7日）

2021年

- ・ 上野ナイトミュージアムツアー（2月12日・19日）、ポッドキャストコンテンツ「10代ミュージアムによるラジオ」制作・配信（2月22日～）：文化庁による博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託事業として実施
- ・ 崖覧会その壺（3月24日）
- ・ 「しのばずで遊ぼう！池と町」ウォーク&プレイ上映会（3月28日）
- ・ 2021年度第1回総会オンライン開催（5月27日）
- ・ 東京都庁による大学研究者事業提案制度に応募（TTT 構想 PT）（6月18日）
- ・ 広域秋葉原放送局 in しノばず中継第1回放送（4月5日）～第6回（6月21日）
- ・ 総会資料を2021年度発行分から遡って『東京文化資源会議年報』と改題（5月5日）、既刊とまとめて納本
- ・ 崖東夜話第二夜（10月22日）
- ・ セミナー&ワークショップ「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」（スポーツ文化資源 PT）（11月20日）
- ・ 公開シンポジウム no.12 「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョンー 旨味都市の文化創生」（11月26日）
- ・ インターネットによる上野公園利用調査（上野ナイトパークコンソーシアム）（11月30日～12月3日）

2022年

- ・ 第1回 UNPC フォーラム（3月17日）
- ・ 社寺会堂塾フォーラム（4月14日）
- ・ ひじりばし博覧会 2022（5月5日）
- ・ 崖東夜話第三夜（11月9日）

2023年

- ・ フォーラム no.7 「東京の持続可能性ー文化資源による＜創造＞のエコシステムー」（3月20日）
- ・ ひじりばし博覧会 2023（5月5日）
- ・ 第1回新東京ビジョンフォーラム（賛助会員限定）（6月23日）
- ・ 神保町活性化 PT 第1回会議（7月3日）
- ・ 崖東夜話第四夜（10月6日～2025年1月8日）
- ・ 新東京ビジョン座談会（会員限定公開）（12月18日）

2024年

- ・ ひじりばし博覧会 2024 「神保町を夜からはじめる」（5月5日）、同時に東京文化資源会議叢書第1号『東京からジモトをつくる。』発行（5月5日）
- ・ 神保町文化発信会議発足（6月4日）
- ・ 地域観光新発見事業「世界に誇る日本の出版文化をインバウンドで活かすー神保町モデルの創出」補助金交付決定（6月20日）
- ・ 第1回神保町シンポジウム「世界の神保町をめざすー"知のプラネタリウム"の発信」（6月26日）
- ・ 第1回神保町夜学（6月27日）
- ・ フォーラム「本の街・神保町の街並みの保全・活用の未来」（日本建築学会関東支部と共催）（8月27日）
- ・ 第1回神保町出版セミナー（全6回）（10月10日）
- ・ 書店・古書店内ガイドツアー実験開始（全12回）（11月2日）
- ・ 崖東夜話第五夜（11月14日）
- ・ 神保町夜の街歩き第1回（全3回）（11月16日）
- ・ 観光庁補助金による神保町実態調査結果報告会（11月26日）
- ・ 第1回神保町文化発信会議幹事会（12月26日）

2025 年

- ・ 第 2 回神保町シンポジウム「出版文化の神保町 世界に飛翔するために」(1 月 22 日)
- ・ 第 1 回推し本夜話「今一番推したい本！」(3 月 18 日)
- ・ ひじりばし博覧会 2025・第 1 回神保町 ZINE FAIR (5 月 5 日)

<出版物>

書籍等

- ・ 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016 年
- ・ 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016 年
- ・ 同人誌『広域秋葉原作戦 2019 β』 2019 年
- ・ 『帝都物語地図カタログ』 2019 年
- ・ 『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』 2020 年

報告書

- ・ 『東京文化資源区構想』 2015 年
- ・ 『2030 東京ビジョン 3 区長、大いに語る』 2016 年
- ・ 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』 2017 年
- ・ 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018 年
- ・ 『上野ナイトパーク構想報告』 2019 年
- ・ 『リノベーションまちづくり制度研究会 2018 年度報告書：東京歴史文化地区の創出にむけて』 2019 年
- ・ 『TOKYO TRAM TOWN 構想計画』 2020 年
- ・ 『旨味都市の文化創生 — 2030 列島ビジョン』 2020 年
- ・ 『文化資源からみた秋葉原エリアの地域活性化のための調査研究および提言に関する業務報告書』 2021 年
- ・ 「世界に誇る日本の出版文化をインバウンドで活かす 神保町モデルの創出 — 利用実態・ニーズ調査および要因分析報告(要旨)」 2025 年

パンフレット

- ・ 「東京文化資源会議：2030Tokyo を変える！」 2016 年～(随時改訂)
- ・ 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016 年
- ・ 「湯島・神田・秋葉原めぐり(日英中 3 か国版)」 2017 年
- ・ 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017 年
- ・ 「江戸・東京 知の交差点 グレーターアキバ(日英中 3 か国版)」 2018 年
- ・ 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市(日英中 3 か国版)」 2018 年
- ・ 「近代スポーツ発祥の地をたどる(日英中 3 か国版)」 2018 年
- ・ 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウタウン(日英中 3 か国版)」 2018 年
- ・ 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ(日英中 3 か国版)」 2018 年
- ・ 『アーツ&スナック運動』 第 1 号、2020 年
- ・ 「TOKYO TRAM TOWN 10 の Q&A」 2020 年
- ・ 『東京からジモトをつくる。』(東京文化資源会議叢書第 1 号) 2024 年
- ・ 『新・東京ジモト論』(東京文化資源会議叢書第 2 号) 2025 年

定期刊行物

- ・ 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』(季刊、2017 年 9 月～)
- ・ 『東京文化資源会議総会資料(年報)』(年刊、2016 年～)

「神保町の夜からはじめる」プロジェクトでは、神保町に関心がある、神保町で仕事をしている、神保町を愛している等、あえて地元住民の方ではなく、当会議が提唱する「ジモト論」を具現化する、様々なセクター・分野の神保町ジモト民が集まりチームを編成した。

参加メンバー（2025 年 3 月末現在、敬称略・50 音順）

青木隆平（（有）セカンドブレーン社長）
 生貝直人（一橋大学教授）
 乾靖（竹中工務店まちづくり戦略室専門役）
 植野淳子（㈱アーイメージ社長）
 植村八潮（専修大学教授）
 宇於崎 勝也（日本大学教授）
 薄井宏行（千葉工業大学教授）
 梶原治樹（扶桑社販売局長）
 加藤賢治（日鉄興和不動産開発企画本部開発第一グループリーダー）
 加藤聡（大阪大学特任研究員）
 鎌垣英人（NPO ブックストア・ソリューション・ジャパン）
 川野智弘（弁護士）
 草薙彩音（共立女子大学助教）
 小林正美（明治大学名誉教授）
 今場雅規（三菱地所都市計画企画部マネージャー）
 佐久間隆（日本大学特任教授）
 沢辺均（ポット出版代表）
 柴野京子（上智大学教授）
 高橋大輔（共立女子大学教授）
 田中久徳（元国立国会図書館副館長）
 谷島貫太（二松学舎大学准教授）
 玉置泰紀（角川アスキー総合研究所エリア LOVE ウォーカー総編集長）
 田村俊作（石川県立図書館長）
 田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役）
 田良島哲（東京文化財研究所客員研究員）
 千谷和子（住友商事ビル事業ユニット事業推進第一チームサブリーダー）

坪内一（千代田区立千代田図書館サービスプロデューサー）
 中野健太郎（ふらっと神保町主宰）
 沼田真一（東京造形大学准教授）
 古川柳子（明治学院大学教授）
 前田拓郎（弁護士）
 森永武男（竹中工務店開発計画本部 1 グループ長）
 柳与志夫（東京大学特任教授）：座長
 山岸郁子（日本大学教授）
 山本俊哉（明治大学教授）
 渡辺達朗（専修大学教授）

定例会議の開催

プロジェクトの課題やそれを解決するための新たな企画を考えると、毎月定例会議を開催した。（第 1 回 2023 年 7 月～）

本プロジェクトがめざす目標を設定するため、10年計画でその実現を図る「神保町未来ビジョン」を策定・決定し（2025年1月）、公表した（2025年5月ひじりばし博覧会2025シンポジウム）。また、ビジョンの確実な実施を保障するため、年次計画を策定することとし、第二年次に相当する2025年の年次計画を作成した。なお、ビジョン、年次計画とも、状況の変化に応じて進化させるものと考え、随時改訂しながら利用していくことになっている。

神保町未来ビジョン

ー文化資源で豊かになる：神保町まちづくりモデルの形成と実現（2025年4月版）

ビジョン提示の趣旨と背景

神保町への社会的関心が高まっています。雑誌やテレビでの特集、従来の中高年男性に加えて外国人、女性、若者の来街者増加、活字文化議員連盟を始めとする出版・活字文化関連団体の活動の活発化など、その事例は枚挙にいとまがありません。その一方で、古書店の承継問題や古いビルの建替えなど、難しい問題も山積しています。また古書店の多くが閉店する夜間には、相変わらず人通りは少なくなり、飲食店等を含め街の文化資源が十分には活用されていません。

東京文化資源会議では、神保町の豊かな文化資源のさらなる活用と発展を目標に、先ず神保町の夜の活性化に取り組み、そこで得られた成果・知見を昼間や週末にも広げていくことを考えています。10年先の神保町を構想し、それに賛同・協働していただける様々な人たちと構想する未来に向かって一歩ずつ進んでいきたいと考えています。

多様な文化資源と夜間という時間資源の相乗的な活用を図る「神保町まちづくりモデル」は、首都東京に存する文化的なまちづくりの主要アーキテクチャとなり、歴史的な文化資源に富んだ全国の新たな都市再整備モデルにもなると思われます。

「神保町未来ビジョン」は、神保町の伝統の評価、現状把握と分析、将来の方向性、それを実現するための方策の4本柱から成ります。

ビジョン骨子

1 神保町の歴史的特性を文化資源の観点から尊重する。

- ・ 書籍だけでなく文化資源が集中した特別な街
- ・ 学術施設、宗教施設、出版社等人材の集中：学びの伝統（学びの場の多様性）
- ・ アジアに開いた窓・アジアからの人材流入（事例：そこから育った辛亥革命）
- ・ 「神保町物語」のような歴史的特性をわかりやすく説明で

きるものが必要

- ・ 東京の中での「神保町」の特徴、位置づけ、立地のよさ（都内各ターミナルに近接）
- ・ 東京の特色ある他地域（アキバ、上野、谷根千等）とのつながり、街歩き楽しさ

2 神保町の今を捉える：課題と可能性

- ・ 学術文化資源（大学等）の観点からは全国的には相対化（傑出した立場ではない）
- ・ 特色ある街並みの維持活用に係る課題の深刻化（事業承継、建替え、相続税等）
- ・ 飲食店、街並み等本の街だけでなく多様性（ギャラリー、複合書店等の増加）
- ・ 外国人を含む観光地としての神保町への着目（その基盤としての文化資源の伝統）
- ・ 国内外へのアピール度の高まり（例『森崎書店の日々』26か国語に翻訳）→それをさらに高めるための裏付けとなる神保町の定量的資源価値を提示する必要（書籍の蓄積量など）

3 10年後の神保町モデルを創造する

ー日本社会へのインパクトと世界への「知のプラネタリウム」発信

- ・ このプロジェクトの「主体は誰か」を考えながら、あるいは形成しながら進めていく。
- ・ 昼とは違う夜の文化（文化資源を愉しむ新しいナイトライフ）の創造と多様な文化資源の緩やかなネットワーク化
- ・ 文化的街並み活用と文化資源に関わる異業種店の緩やかな連携、それを支える制度整備
- ・ ホール、劇場等多くの人々が「夜に」集える場所の確保と仕組みづくり
- ・ 多様な文化資源活用人材の育成（大学の再生と街が育てる機能の融合）と大学に限定されない学びの場の創出
- ・ プリントメディアとデジタル文化資源の交点づくり
- ・ 新しい文化産業・コンテンツ産業→「知恵産業」の創出
- ・ 神保町モデルの地方中核都市への波及と世界発信

4 3段階の実施フェーズと取組事項

以下の2024年度～2033年度の10年間の取組においては、神保町文化発信会議、千代田区等関係機関との協議・協力を得ながら進めていく。

当面の取組（3年以内）

- ・ 調査による実態把握・分析
- ・ 各種パイロット事業の試行・結果分析と改善・日常化
- ・ 職種・年代等を越えた交流の場の創設と定着化
- ・ 神保町内異業種間の交流促進（場の設定）
- ・ 文化的街並み活用プランの策定（関係諸団体との協議）
- ・ zine文化の取り込み → 神保町 zine フェスの開催

- ・ 都内夜の活性化を象徴する「神保町夜市」の開催
- ・ 『神保町入門』のような書籍・ガイドブック発行、あるいは zine シリーズ発刊
- ・ 神保町内在庫を対象にした書籍所在統合検索システムの稼働
- ・ これまで注目されてこなかった神保町内ギャラリーの明示化と相互連携促進
- ・ 税制、まちづくり設計等制度改革の方向性提示

中期的取組（４年～７年）

- ・ 明確な効果と対象となる根拠法を明示した国家戦略特区制度の導入（例：神保町の豊富な過去コンテンツや生成 AI をフル活用するためのデジタルコンテンツを対象とした知財関連法など）
- ・ 文化資源関連異業種連携のイベント・事業の創出
- ・ 「ホンの映画祭（仮称）」開催（本に関わる全ジャンルのショートフィルム対象、まだ作られていない映画の予告編コンペ）
- ・ 小規模のホール、劇場、映画館等「夜の文化装置」整備の働きかけ、まとめ役としてのナイトカウンスル制度の導入
- ・ 地域コミュニティ紙の発刊（月刊を目標、当面季刊）（例：「Theatre Communication Magazine」座高円寺発行）→ あえて高級紙をめざす。
- ・ 神保町の文化資源を活用した新しいコンテンツビジネスの創業支援
- ・ 他地域からの多様な文化産業・メディア産業に関わる異業種事業者の移転促進と外国人による起業支援（サブリースの活用など）の企画・働きかけ
- ・ 文化的街並み活用プランに基づく開発案件の計画・実施働きかけ
- ・ 書店・古書店の夜間営業を支える協同組合の設立と夜間営業の部分的開始

最終段階（８年～１０年）

- ・ 税制、都市整備計画、知財関連法規等制度改革、UNESCO 文化遺産登録申請など
- ・ 書籍関連産業の継続性担保（新しいビジネスモデルの創出）
- ・ 平日・休日、昼間・夜間を通じて神保町の街を楽しむ人の増加（例えば今の２倍の来街者：あくまで指標としてであり目的ではない）と神保町全体での消費活性化（無料の博物館街にならないように、売上高も２倍以上に）
- ・ 地域、世界への文化発信（新たなコンテンツ創造と発信）：神保町モデルの普及

体制と資金確保

以上の事業を推進していくことのできる街の体制づくり（神保町タウンマネジメント組織：神保町ジモト会議の形成）に取り組む。但し、それは事業展開しながら徐々に形成していくもので、ある時

設立総会を開いて設置するようなものではないと思われる。また各事業を進めていくための資金源についても多様な方法を模索しながら進める。

神保町プロジェクト 2025 年活動計画（10 年計画第二年次） （2025 年 4 月版）

- ① 第 2 回神保町シンポジウムの開催（1/22）
10 年計画初年度活動成果発表と神保町 PJ の社会的アピール
- ② HP の制作：広報チームを立ち上げ（24/12/14）、3 月 17 日（月）公開
<https://jimbocho.site/>
- ③ 神保町「推し本夜話」オンライン開催：2 回の試行（3/18、4/16）
- ④ ひじりばし博覧会 2025（5/5）
 - ・ 2024 と同じく統一テーマ「神保町」で実施
 - ・ 神保町文化発信会議及び千代田区の後援、各加盟団体に自前イベントの実施を提案→ 字・活字文化推進機構が朗読会を開催
 - ・ 「神保町未来ビジョン」公式発表の場とする。但し、実際にはそれ以前に確定し（1/10 幹事会決定）、それに基づく活動をすでに継続実施中
 - ・ 今回は「孤独のグルメ」の久住昌之氏（原作者、神保町を高く評価）をフィーチャー。鼎談形式（太下先生、石川「おさんぽ神保町」編集長）で、神保町の食をテーマ
 - ・ 1 階ルーム B、C 及び 2 階テラスルームで午前、午後、夕方の 3 枠、他にエントランス空間と屋外広場使用、全 11 プログラム実施
 - ・ 来年 1 月実施予定の zine フェスの試行を行う→ 「第 1 回 Jimbocho Zine Fair」として開催 → 来年以降も継続実施の方向
 - ・ 屋外広場は、例年どおりノーガホテルの出店と、キッチンカー 2 台による飲食サービス実施
 - ・ その一環で神保町ナイトウォーク実施（5/14）
- ⑤ 活字文化連連によるナイトウォーク（6/2）実施支援、地元関係者との懇親会を含む
- ⑥ 神保町夜学（毎月実施）
- ⑦ 来街者実態調査の活用
 - ・ 2024 年調査報告（要旨）はその都度配布、成果をアピールしていく（この種の調査が他にないのは強み）
 - ・ 2025 年以降の継続的調査の可能性探る：他機関への働きかけ
- ⑧ 2024 年度観光庁補助金で実施したパイロット事業の本格実施
 - ・ 出版セミナー → ニーズ確認、月 1 回程度なら継続可能性高い。有料化（1000 円）で講師謝金を賄う。講師候補者は多数確保可能。問題は会場費の負担。多言語対応については、引き続き TOPPAN の協力を得る。
 - ・ ナイトウォーク → ニーズ確認、千代田図書館（SPS）と組むのが順当。月 1 回実施。有料化（参加費 1000 円）

で随行者人件費は手当てできる。SPS への委託料をどう賄うか。ホテル、旅行会社等と組み旅行パッケージ化して、その料金の一部に組み込んでどうか。

⑨ 神保町内集会室の確保

- ・ 神保町内の人が昼間でも集まりやすい 20 人～ 30 人程度のフォーラム開催場所が必要、なるべく無料。

⑩ 異業種間交流の場づくり

- ・ 街の新しい核になる人を対象に業種を超えた緩やかな懇親会をまずは数回実施してみる。当面は出版書店関係と飲食店関係を対象とするが、楽器店、スポーツ用品店、ギャラリー等も視野に入れておく。

⑪ ハード整備の検討（Beyond Arts Jimbocho：BAJ、小林正美座長）

- ・ 千代田学グループの成果発展として位置づけ、神保町周辺の建築・まちづくり系大学が中心となる。東大都市工からも参加を得たい。→ ブロック単位の開発は採算割れの可能性が高く、もっと議論の土俵を拡げて周辺地域との連関も含めたストリート中心のまちづくり構想を作る方向に転換（経済、文化資源等参加者の分野も広げる）
- ・ 国、都、区の検討も具体化しつつあるため、その連関を考える必要あり
- ・ スポンサーの確保必要（企業、都庁等）

⑫ 神保町夜市 → 神保町 zine フェスとして開催

- ・ 独自のフェスとして、神保町の他のイベントと被らない冬に屋内で開催
- ・ 会場は出版クラブホール、1 月 18 日（日）・19 日（月）2 日間予約済み
- ・ 三省堂・東京堂・書泉グランデ 3 社共同開発のジン（gin）も神保町飲食の象徴として一緒にアピールしてはどうか、クラフトジン醸造所への出店呼びかけも考えられる。
- ・ 検討チームを立ち上げる（2/11 第 1 回打合せ）
- ・ 予算見積もり 600 万円～ 700 万円を想定、観光庁 2025 年度補助金（地域観光魅力向上事業）の対象となるためには 600 万円以上の事業規模が要件
- ・ ひじりばし博覧会 2025 で試行した zine fair との関係はどうするか？

⑬ 神保町の歴史や物語、生活誌を紹介する単行書あるいは zine シリーズを、最初から世界に向けて編集・刊行・翻訳発信

⑭ 神保町内在庫本検索システムの導入

⑮ 神保町内アート系資源マップの制作・配布とイベント開催

- ・ 意外に多いギャラリー、新設もある。また書店・古書店も版画、イラスト、写真等グラフィック資料を扱う店が、店舗数・来客数とも増えている。
- ・ マップ制作を機に関係者の緩やかな情報・意見交換の場をつくる。
- ・ 美術全集等美術系書籍を多く出している小学館との関係をつくる。
- ・ マップ完成記念のイベントを実施し、話題性をもたせる。
- ・ まずは書店系のアート作品展示店の責任者に事情を伺うことから始める。

⑯ 制度改革に向けた課題整理と解決策提示のための検討チームを立ち上げる

- ・ まちづくり・建築系だけでなく、知財関連特区などソフト系も検討対象とする。
→ BAJ との合同チームにしてもいい。

⑰ 補助金等の可能性

- ・ 観光庁後継補助金制度「地域観光魅力向上事業」に応募、zine フェスを対象に提案。
- ・ 「ホンの映画祭」は経産省に打診し（来年 2026 年企画）、実施可能性について検討する。

⑱ 一昨年実施した新東京ビジョンフォーラムの発展形としての神保町読書クラブの開設

- ・ 賛助会員企業人と文化資源会議内有識者・専門家との交流：本を媒介に
- ・ 年 4 回程度「四季（識）の会（仮称）」
- ・ 企業の参加者が気になった本を紹介、それを素材に全員で懇談

⑲ 第 3 回神保町シンポジウムの開催（10 月頃）

- ・ 来年の zine フェスを見越して「zine と出版と神保町」をテーマに想定
- ・ 2025 年のプロジェクト成果発表の場

⑳ 神保町放送局の開局（まだ発想レベル）

- ・ 神保町文化発信をテーマにした関係者インタビュー、対談の放送
- ・ YouTube 出版区（古本屋その他）や Podcast などを利用する。

資料⑤-3 神保町文化発信会議の発足とシンポジウムの開催

神保町文化発信会議の発足

神保町に対する近年の社会的関心の高まりを受けて、様々な団体・機関が神保町のさらなる活性化に向けて取り組みを進めている。そうした状況を背景に、主要な6団体が大同団結して、「本の街神保町が有する出版物等の豊かな知識資源を基盤として、さらにそれを充実・活用し、もって我が国の出版文化等の向上とその国内外への発信により日本社会の発展に寄与することを目的」として「神保町文化発信会議」を2024年6月6日に発足させた(別紙規約)。

以下がその構成6団体である(50音順)。

- ・ 活字文化議員連盟(会長:上川陽子衆議院議員)
- ・ 出版文化産業振興財団(理事長:近藤敏貴トーハン会長)
- ・ 東京文化資源会議(会長:吉見俊哉國學院大学教授)
- ・ 本の街・神保町を元気にする会(会長:亀井忠雄三省堂会長)
- ・ 文字・活字文化推進機構(理事長:山口寿一読売新聞グループ本社社長)
- ・ 読売新聞社

共同代表には、山口寿一理事長と近藤敏貴理事長が就任し、事務局長には読売新聞東京本社の安部順一専務取締役が就いた。日常の運営は幹事会を設置して担うこととなった。

神保町シンポジウムの開催

こうした神保町を巡る大きな動きを受けて、東京文化資源会議では、神保町文化発信会議と共催で、神保町のこれからを論じる以下のシンポジウムを2回開催し、2回ともほぼ満席となり、内容的にも好評を博した。

第1回シンポジウム

- ・ 日時:2024年6月26日(水)午後6時~8時
- ・ 場所:出版クラブ4階会議室(神保町)
- ・ 構成:
 - ・ 基調報告:上川陽子 活字文化議員連盟会長
 - ・ 報告「神保町の現在と課題」植村八潮 専修大学教授
 - ・ パネルディスカッション「日本の出版文化を世界に — 神保町の可能性」
 - ・ 浅田次郎(作家)
 - ・ 植村八潮(専修大学教授):司会
 - ・ 瀬瀬くり(大屋書房店主)
 - ・ 西村幸夫(國學院大学観光まちづくり学部学部長・神田学会会長)
 - ・ 廣野真一(集英社社長)

第2回シンポジウム

- ・ 日時:2025年1月22日(水)午後6時~8時
- ・ 場所:出版クラブ3階ホール(神保町)
- ・ 構成:

- ・ 東京文化資源会議神保町プロジェクト実施報告:観光庁補助金事業を中心に 柴野京子 上智大学教授
- ・ 神保町文化発信会議参加団体報告
 - ① 出版文化産業振興財団 松木修一 専務理事
 - ② 本の街・神保町を元気にする会 亀井忠雄 会長
 - ③ 文字・活字文化推進機構 山口寿一 理事長
- ・ パネルディスカッション
 - ・ 鹿島茂(作家、フランス文学者)
 - ・ 切通理作(ネオ書房店主、評論家)
 - ・ 柴野京子(上智大学教授)
 - ・ 林真理子(作家、日本大学理事長、日本文芸家協会理事長)
 - ・ 吉見俊哉(東京文化資源会議会長、國學院大学教授):司会

(別紙)

「神保町文化発信会議」規約

第1条（名称）

本会は、神保町文化発信会議と称する。

第2条（事務局）

本会の事務局は、株式会社読売新聞東京本社内に置く。

第3条（目的と活動期間）

1. 本会は、本の街神保町が有する出版物等の豊かな知識資源を基盤として、さらにそれを充実・活用し、もって我が国の出版文化等の向上とその国内外への発信により日本社会の発展に寄与することを目的とする。
2. 本会の活動期間は、令和6年（2024年）6月から令和11年（2029年）3月までとし、延長する場合は改めて活動期間を定める。

第4条（組織）

1. 本会は、前条の目的に賛同する法人又は団体をもって組織する。
2. 本会の会員は、前条の目的推進のため自ら主体的に活動する本会員及び特別会員とする。
3. 会員は、幹事を1名選任することができる。幹事は、幹事会及び総会に出席することができる。

第5条（役員）

1. 本会を運営するため、総会の承認に基づき次の役員を選任する。
 - (1) 代表（複数名選任することができる）
 - (2) 事務局長
 - (3) 監事
2. 本会の常務は、役員及び会員が単独で執行することができる。
3. 本会の設立時の役員については、本規約末尾の附則に定めるところによる。
4. 役員の任期は、2年とする。ただし、役員の再任は妨げられない。
5. 役員は、任期が満了した場合でも、後任者が就任するまでの期間、引き続きその職務を行う。
6. 役員は、無報酬とする。

第6条（入会）

本会への入会を希望する者は、会員1名の推薦が記された書面を本会に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

第7条（顧問）

1. 本会には、特別会員である顧問を置くことができる。
2. 顧問は、総会の承認を得て、代表が委嘱する。
3. 顧問は、本会の運営に関し助言をするほか、総会及び幹事会に出席し、意見を述べるることができる。

第8条（総会）

1. 総会は、代表の招集に基づいて年1回開催し、次の事項を審議する。ただし、代表が必要と認めるときに臨時に開催することができる。
 - (1) 予算及び決算に関する事項
 - (2) 本会の目的達成のための計画策定及び運営方針に関する事項
 - (3) 本会の規約の改正に関する事項
 - (4) 役員の選解任に関する事項
 - (5) 会員の除名又は活動停止に関する事項
 - (6) その他本会にとって重要と認められる事項
2. 総会の議長は、代表が務める。代表に事故があったときは、代表を除く役員で協議の上議長を定める。
3. 総会の議決は、会員の過半数が出席のうえ、出席会員の過半数により決する。会員の議決権は、会員1法人又は団体につき1個とする。可否同数の場合は、代表の決するところによる。
4. 会議に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法（電子メールによる方法を含む）により議決し、又は他の会員を代理人として議決権を行使することができる。この場合において、当該欠席会員は、出席したものとみなす。

第9条（幹事会）

本会の運営について協議するため、幹事会を置く。幹事会は、代表が必要と認めた場合に開催する。

第10条（事務局長）

本会の事務を総括するため、第5条1項に基づき事務局長を置く。

第11条（会計及び会計年度）

1. 本会の運営に必要な経費は、寄付及びその他の収入を充てる。
2. 本会の会計年度は、毎年4月1日から、翌年の3月31日までとする。

第12条（その他必要な事項）

本規約に定めるものの他、本会の運営に関し必要な事項は、幹事会で協議の上定める。

附則

1. この規約は、令和6年6月4日開催の設立総会で承認され、同日から施行する。
2. 本会の最初の代表は山口寿一及び近藤敏貴、幹事は安部順一、高橋恒平、花輪智史、町田智子、松木修一、八木壮一及び柳与志夫、事務局長は安部順一、監事は数藤雅彦とする。
3. 本会の設立初年度の会計年度は、令和6年6月4日から令和7年3月31日までとする。

開学の趣旨

「神保町の夜からはじめるプロジェクト」のプログラムの一環として、神保町に関わる様々な背景をもつ人たちが*が、その立場を超えて横断的に出会い、神保町の夜を元気にする方策について自由に懇談する場を設けることとし、そこで出された意見は、神保町プロジェクトを通じて関係者に提示・働きかけをし、神保町のこれからの可能性を探っていくきっかけとする。

*神保町居住者、神保町で働く人、神保町愛好者等

実施概要と成果

原則月1回、曜日は固定せず、夜7時～8時半頃開催。場所は固定せず、飲食可能な神保町内のカフェ等を利用する。神保町関係者であるゲストを1名お招きし、神保町に関わる様々なトピックを30分程度紹介していただき、その後参加者との自由な懇談を行う。参加者も固定せず、毎回公募する。

当初は定員（15名程度）の半分程度の参加者数であったが、回数を重ねて知名度も上がり、最近はほぼ満席状態となっている。

実績

- 第1回 スーザン・テイラー（神保町研究者）
2024年6月27日 ブックハウスカフェ神保町
- 第2回 書物蔵（古本収集家）
2024年7月29日 共立女子大学本館1206教室
- 第3回 奥野武範（ほぼ日刊イトイ新聞編集者）
2024年9月4日 同上
- 第4回 岸川雅範（神田明神禰宜）
2024年10月25日 ブックカフェ二十世紀
- 第5回 杉山佳世子（肆オーナー）
2024年11月27日 肆（YON）
- 第6回 青木隆平（セカンドブレン代表取締役）
2024年12月9日 共立女子大学本館1206教室
- 第7回 野上暁（編集者）
2025年1月16日 月花舎
- 第8回 鳥居繁（五十稻荷神社宮司）
2024年3月18日 廣瀬與兵衛商店
- 第9回 石原楓（専修大学学生）
2025年4月16日
千代田プラットフォームスクウェア505会議室
- 第10回 藤井恵介（東京大学名誉教授）（5月22日） 肆



日本が誇る MANGA（マンガ、アニメ、ゲーム）に代表される日本のコンテンツが世界的に受容されている時代において、神保町は多くの出版社が点在する文化コンテンツの聖地として、文化コンテンツに理解のある訪日外国人旅行者からの需要が高い地域といえます。

神保町の特色ある地域文化資源を活用した新たな地域観光事業の創出を目指すため、これまであまり調査されてこなかった来街者調査や来街者のニーズ調査、複数の古書店・書店へのインタビュー等を通して神保町の実態調査を行い、神保町を訪れるさまざまな世代や国籍の方々のニーズや神保町に求めるものについて調査しました。

調査の実施にあたっては、観光庁の令和 6 年度「地域観光新発見事業」の助成をもとに実施しました。調査内容については、日建設計総合研究所の協力のもと、滞在人口調査、古書店へのアンケート、来街者アンケート、神保町内店舗（書店、古書店、飲食店等）へのインタビュー調査等をもとにしたキーワード抽出等を行いました。

利用実態・ニーズ調査および要因分析報告書については、東京文化資源会議のウェブサイト内【ライブラリー】にて閲覧することができます。

https://tcha.jp/wp-content/uploads/jimbocho_report_202411.pdf

調査と並行して、多言語対応による書店ガイドや出版セミナー、ナイトタイムエコノミーによる新たな可能性発掘として夜の街歩きを実施し、調査結果とあわせてこれからの神保町モデルの創出に向けたビジョン策定に着手しました。これらのビジョン策定においても本調査を活用しながら、これからの「神保町モデル」創出に向けて取り組みを始めています。



実態調査結果-1. 滞在人口調査

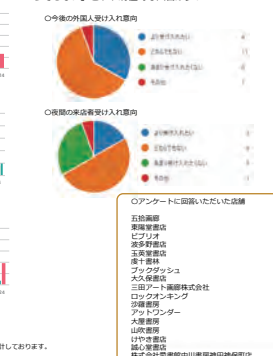
- 男性の滞在人口の方が女性より多いが、平日休日も女性の増加傾向が大きい
- 年代別には40代の滞在人口が多いが、20代は近年増加傾向である
- 休日は勤務者が少なく来街者が多いが、休日来街者の増加傾向が大きい



※各年度の1/4(4/30)〜1/3(3/31)の平日平均滞在人口を算出（調査時間：15時〜21時）
データ提供：KDDI・経緯調査インターナショナル（KDDI Location Analyzer）
※あくまで目安となる傾向を示すもので、個人を特定できない地域単位での集計を行っています。

実態調査結果-2. 古書店へのアンケート

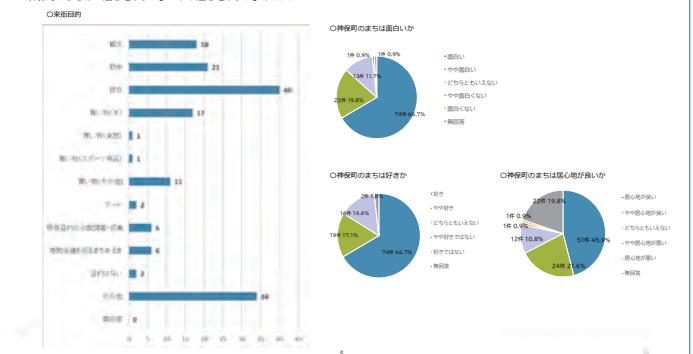
- 神田古書店組合加盟店に対して2024年7〜8月に実施。回答19件
- 来店者の属性は、男性・学生・若者、会社員、観光客（海外）が多い
- コロナ禍以前と比べ、来店者数・売り上げともに減少
- 外国人客数は増加
- 今後の外国人受け入れ及び来店者の来店者受け入れ意向については「どちらでもない」とやや消極的な回答が多い



○アンケートに回答いただいた店舗
五輪書店
東洋館書店
ヒビノブ
波多野書店
五葉書店
虎ノ巻書店
ブックスタジオ
大久保書店
三田アート画廊株式会社
ロックス・デザイン
のぼり屋
アートワーカー
大塚書店
山崎書店
山崎書店
山崎書店
株式会社豊田山崎書店

実態調査結果-3. 来街者アンケート

- 2024年8月23日（金）、24日（土）（それぞれ10:30〜16:00）において、神保町における街頭での来街者アンケートを実施
- 来街者に対する調査員による声かけは無作為ではなく20代以下の年代を中心に行い、111件（平日65件、休日46件）の回答が得られた
- 回答者の属性は、日本人92%、男性53%、20代以下59%、連れなし（単独行動）46%
- 来街目的は飲食25%、散歩13%、買い物（本）11%、観光11%、来街目的の不明な来街者は、ラーメン12%、中華11%、洋食11%、和食9%
- 飲食店のうち好きなジャンルは、「ラーメン」が67%、「好き」が64%
- 神保町のまちが「面白い」「やや面白い」が67%、「好き」「やや好き」が64%



神保町は多くの出版社が点在しており、文化コンテンツの聖地として、訪日外国人旅行者のなかでも文化コンテンツに理解のある層における旅行需要は高い状況です。神保町の特徴ある地域文化資源を活用することで新たな地域観光事業を創出することを目指すため、日本の文化コンテンツに対して感度の高い欧米訪日外国人旅行者にアプローチします。具体的なニーズとしては、諸外国では珍しいグラフィック系の古書や版画、写真、美術書といった古い書籍文化への受容の高い訪日外国人旅行者層が挙げられます。また、日本食を代表とする日本ならではの豊かな食文化に対する意識の高いアジア等訪日外国人旅行者、昭和レトロ等独自の飲食店等の魅力に関心の高い国内の若者・女性をターゲットとしたパイロット事業を実施しました。

実施にあたっては、観光庁の令和6年度「地域観光新発見事業」の助成をもとに行いました。本事業では、多言語対応による書店ガイドや出版セミナー、ナイトタイムエコノミーによる新たな可能性発掘として夜の街歩きを実施し、ターゲットに対する仮説検証およびユーザーへのニーズヒアリングを徹底しながら、神保町の新たな可能性の発掘を試みました。また、パイロット事業と合わせて神保町の来街者調査を行い、これからの神保町モデルの創出に向けたビジョン策定に着手しました。

多言語自動通訳付き古書店内部ツアー

神保町にある新刊書店や古書店など多様な個性的な書店の内部を深く知るための書店ガイドを企画しました。魅力ある書店を楽しむ方法をガイドし、神保町をより深く楽しむ機会を提供しました。TOPPAN 協力のもと、多言語自動通訳技術を導入し、外国人にもその場で翻訳された情報をもとに詳細な書店情報を伝える等のパイロット事業としました。

実施協力書店：

- ・ 11月2日（土）、11月9日（土）、11月16日（土）
アットワンダー JG（古書店）
- ・ 11月30日（土）、12月4日（水）、12月11日（水）
書泉グランデ（新刊書店）



出版文化レクチャー・セミナー

What Kind of Town is Jimbocho? A Story of Antiquarian Books and Publishing | 「神保町ってどんな街？古書と出版の物語」セミナー企画

古書店街・神保町の魅力を深く掘り下げるため、出版文化や神保町ならではの古書文化やその生態系、古書店の経営や古書店街の発展、さらには日本の出版文化への寄与について、専門家による入門編としての解説やセミナーを行いました。神保町ならではの特色や神保町や出版文化に造詣の深い専門家を招聘し、一般の方や初学者でも神保町を深く理解できる内容としました。また、メインターゲットを外国人とするため、連携先である TOPPAN による自動翻訳技術を導入し、外国人向けにも神保町の特色を知っていただくためのセミナー環境を構築しました。

- ① Speaker: Susan Taylor (PhD, Harvard University, Jimbocho Research) 登壇者：スーザン・テイラー氏（ハーバード大学博士号、神保町研究）

01. Jimbocho and Secondhand Books I: Family Business, Staying Power, and the Nature of the Old Book Business 「神保町と古本 I——同族経営、持続力、そして古本ビジネスの本質」

02. Jimbocho and Secondhand Books II: Rethinking the Idea of the Marketplace through Jimbocho' s Kokankai 「神保町と古本 II——神保町古書会館を通じて、市場の理解を再考する」

- 10月10日（木）18:30～20:00

- 11月28日（木）18:30～20:00

- ② Speaker: KOBAYASHI Masaki (Editor-in-Chief, Modern Publishing Studies) / 登壇者：小林昌樹氏（『近代出版研究』編集長）

01. The Developmental History of Jimbocho Bookstore District as Seen through Maps and Photos—From Samurai Residence Town to Student Town 「地図と写真に見る神保町書店街の発展史——武家屋敷町から学生街へ」

- 10月26日（土）18:30～20:00

- 12月19日（木）14:00～15:30

- ③ Speaker: SUZUKI Chikahiko (Associate Professor, Gunma Women' s University, Publishing and Distribution, Humanities and Informatics Research) / 登壇者：鈴木親彦氏（群馬県立女子大学准教授、出版・取次、人文情報学研究）

01. Japan' s Publishing Industry as Seen from Jimbocho 「神保町から眺める日本の出版産業」

- 11月15日（金）14:00～15:30

- 12月14日（土）14:00～15:30



神保町・夜間街歩きツアー

Night Walk in Jimbocho: Books, Bites, and Multi-Language Fun | 神保町ナイトウォーク：本とグルメを楽しむ多言語ツアー

古書の街・神保町において、古本屋を代表とした店舗の多くは昼間の営業が中心である一方、夜間においては多様な飲食店や夜の街並みならではの魅力があります。また、神保町には古くから国際色豊かな飲食店が建ち並び、美味しい料理や日本酒、ワインなど文化と美食が集う場所としても知られています。そこで神保町の街並みや建物についての解説、神保町の書店へのガイド、飲食店が立ち並ぶ路地を散策する街歩きツアーを企画し、訪日外国人を含めて神保町に関心のあるターゲットに向けて新たな価値創出を図りました。

- 11月16日（土）、11月21日（木）、12月5日（木）
- 18:30～20:00



全体の成果

日本文化、出版文化の聖地である神保町において、既存の国内外のターゲットに対してどのような価値創出が可能なのか、書店ガイド、出版セミナー、夜の街歩きツアーと、従来あまり実践されていなかった企画を実施することができ、新たな体験価値を提供するにあたっての実証を行うことができました。また、日本人に対しても同様の観光コンテンツが十分に魅力であることが現時点でも見通しができているため、訪日外国人のみならず、国内の観光客、神保町来街者に対する施策としても拡充を図ることを検討しています。これらを踏まえ、持続可能で継続的な企画販売のために、地域の事業者らとのさらなる連携、情報共有体制、実施における運営体制を構築し、令和7年度内には販売開始ができるよう準備を整えていきます。

また、本プロジェクトを起点として、神保町プロジェクトの情報発信基盤としてのウェブサイトも構築しました。今後、さまざまなイベント情報や提言等を本ウェブサイトを通じて行っていきます。



1 開催趣旨

神保町は「本の街」として有名だが、書籍以外にも食文化を含め多様な文化資源が人々を引き付けている。それを支えるのが路地や古い建築物が残る街並みである。しかし近年、建築物の老朽化もあり、建て替えも進行している。「本の街・神保町」を今後も支え、発展させていく街並みの保全・活用の在り方とその実現のための方策について、日本建築学会大会の神保町開催を機に、ハード・ソフトの両面から議論する場をつくることにした。

2 開催形式

公開フォーラム（事前登録不要）

3 主催・共催・後援

主催：東京文化資源会議

共催：日本建築学会関東支部

後援：共立女子大学、本の街・神保町を元気にする会

4 日時・場所

2024年8月27日（火）午後6時～8時

共立女子大学本館（千代田区一ツ橋）204教室（定員188名）

5 議事概要

（1）開催挨拶

吉見俊哉 東京文化資源会議会長（國學院大学教授）

山本俊哉 日本建築学会大会実行委員長（明治大学教授）

（2）基調報告「神保町の街並みの保全・活用に関わる諸問題」

田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役）

（3）討論 ＜登壇者（50音順、敬称略）＞

小林正美（明治大学名誉教授）：司会

草薙彩音（共立女子大学助教）

瀬瀬くり（大屋書房店主）

高山肇（高山本店社長）

田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役）

中島伸（東京都市大学准教授）

柳与志夫（東京大学特任教授、東京文化資源会議「神保町の夜からはじめる」プロジェクト座長）

6 成果

神保町内の区画毎の立替では採算が取れず、神保町らしい街並みを維持していくためには別の仕組みを考える必要があることが明らかになった。一方で、それは必ずしも現在の建築物の物理的保全を意味せず、建物が代わっても街並みとしての「本の街」の継続・発展が重要であることが参加者の間で共通の認識となった。

2025年3月より、神保町の夜から始めるプロジェクト（以下、神保町プロジェクト）のホームページを開設した。

神保町プロジェクトが開催するさまざまなイベントを告知し、その記録をアーカイブすることを目的としたホームページとして、現在のところ以下のイベント情報を掲載している。

- ・神保町夜学
- ・出版セミナー
- ・神保町ナイトウォーク
- ・推し本夜話
- ・ひじりばし博覧会

上記イベント情報のほか、「神保町ビジョン」や各種報告も掲載するなど、神保町プロジェクトの情報発信媒体として今後もより積極的に情報を発信していくことを計画している。

サイト名：

神保町プロジェクト | 本と文化が出会う街

URL：<https://jimbocho.site/>



活動概要

湯島神田上野社寺会堂プロジェクトは、駿河台、湯島、上野の地域に広がる宗教施設や文化施設を中心に、今日における精神文化のあり方について考える取り組みです。このプロジェクトは2016年に始まり、神社やお寺、教会などがその場所にどのように開かれ、まちとの繋がりをどのように育んできたのか、ソフトとハード両方の面から学んできました。具体的には、これらの施設が立地している場所を理解するために、実際に模型を作り、周辺の地形や景観を調べるなどして、各施設が果たしてきた空間的な役割について考えました。さらに、宗教や学問の違いを越えて、ひとびとが共通して持つ精神的な価値について話し合う場として「社寺会堂塾」を設けました。「社寺会堂塾」の活動は、書籍『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』（2020年、勁草書房）としてまとめられ、また「崖東夜話（がいとうやわ）」というイベントへと発展し、活動の幅を広げています。これらを通して、湯島神田上野社寺会堂プロジェクトは、この地域にある宗教施設や文化施設の多様性に触れ、精神文化の今日的なあり方を考える新たな視点を得ることを目指しています。

活動一覧（カッコ内は形式・場所）

研究会 2024年8月29日（オンライン）

崖東夜話 第五夜 2024年11月14日（木）（神田明神）

【崖東夜話】

「崖東夜話」は、2020年に始まった宗教施設と文化施設が共同でおこなうイベントです。毎年秋に開催し、毎回異なるテーマを設け、各施設がそのテーマに基づいてそれぞれの教えや儀式、考え方などを紹介します。テーマの選定には関係者間で話し合いを重ね、慎重に進めています。このイベントの特徴は、テーマを介して施設がつながり、実演を通して参加者が各施設の精神文化や宗教について触れられるところにあります。音楽、食事、空間といった精神文化や宗教活動を形作るさまざまな要素から、日常生活の中ではあまり意識しない「精神性」を再発見する機会となることを意図した取り組みです。

崖東夜話のホームページ（<https://gaitoyawa.jp>）

崖東夜話の経緯（第一夜～第四夜）

●第一夜

- 日時：2020年10月27日（火）午後6時半～午後11時
 - 会場：アッサラームファンデーション、寛永寺、神田明神、ニコライ堂、湯島聖堂、湯島天満宮
- 第一部
- テーマ：「音のひびき」
- 内容：実演・講話

第二部

テーマ：「魂のかたち」

内容：鼎談・懇談

第三部

テーマ：「崖東夜話を語る」

内容：ラウンドテーブル

●第二夜

- 日時：2021年10月22日（金）午後1時半～7時
- 会場：アッサラームファンデーション、寛永寺、神田明神、ニコライ堂、湯島聖堂、湯島天満宮

第一部

テーマ：「ポストコロナ社会の『やすらぎ』とは何か - 新しい精神文化の役割」

内容：ラウンドテーブル

第二部

テーマ：「やすらぎをもとめて - 音のひびき2」

内容：音の体験

●第三夜

- 日時：2022年11月9日（水）午後3時～9時
- 会場：アッサラームファンデーション、寛永寺、神田明神、ニコライ堂、湯島聖堂、湯島天満宮

第一部

テーマ：「食を通じて祈りを考える」

内容：パネルディスカッション

第二部

テーマ：「食と礼 食と祈り」

内容：実演・講話

第三部

内容：夕食会

場所：ノーガホテル上野東京 Bistro NOHGA

●第四夜 テーマ：「聖なる空間のデザイン思想 — 建築から地域のスピリチュアル・ランドスケープへ」

第一部

日時：2023年10月6日（金）午後7時～9時

会場：神田明神 文化交流館令和の間

内容：シンポジウム

第二部

日時：2023年10月11日（水）午後5時半～7時半

会場：湯島天満宮 本殿 参集殿

内容：参拝、講話

日時：2023年10月23日（月）午後5時半～7時半

会場：神田明神 社殿 境内 文化交流館令和の間

内容：参拝、講話、境内見学

日時：2023 年 11 月 5 日（日）午後 4 時半～ 7 時
会場：アッサラムファンデーション マスジド ラウンジ
内容：実演、講話、食事

日時：2023 年 11 月 15 日（水）午後 3 時半～ 5 時半
会場：寛永寺、上野公園
内容：参拝、講話、見学

日時：2024 年 1 月 8 日（月・祝）午後 2 時～ 3 時半
会場：湯島聖堂 斯文会館講堂
内容：講話、境内見学

第五夜 テーマ：「夜を考える」

内容：ラウンドテーブル

日時：2024 年 11 月 14 日（木）午後 5 時～ 7 時
会場：神田明神 文化交流館 令和の間
登壇者：（敬称略、50 音順）

対中秀行（ニコライ堂主任司祭）、鳥居繁（神田明神権禰宜）、
中島隆博（東京大学教授・東洋文化研究所所長）、
中村泰士（野村不動産ホテルズ運営統括部長）、
ターリク ファタヤーニ（アッサラムファンデーションディレクター）、
宮部亮侑（寛永寺執事）、横山泰子（法政大学教授）、
吉見俊哉（東京文化資源会議会長、國學院大学教授）：司会、
渡辺直（湯島天満宮権禰宜）

「崖東夜話 第五夜」は、11 月 14 日に 5 回目の開催を迎えました。今回のテーマは「夜を考える」。このイベントにとって不可欠なテーマである「夜」を取り上げ、発表とディスカッションの 2 部構成で進行了。前半では、施設の方々（対中さん、鳥居さん、ファタヤーニさん、宮部さん、渡辺さん）から、それぞれの宗教における「夜」の象徴的な意味や儀式について紹介していただきました。中島先生には、宗教や精神文化における「夜」の意味と役割について、思想の歴史をもとに解説していただきました。横山先生には、近世のひとびとが夜の闇や幽霊をどのように捉えていたか、画像を

使って説明していただきました。中村さんには、観光業の立場から「夜」の魅力やインバウンド観光における「夜」の位置づけについて語っていただきました。後半のディスカッションでは、つぎの 2 つの問いについて考えました。「世界の精神文化、宗教において『夜』とはそもそも何であるか？」「東京の都心北部において、その『夜』が内包している精神価値を世界に向けてどのようにアピールし、ナイト・エコノミーを活性化するか？」古代や宇宙的な視点を広く取り入れながら活発に意見を交わし、「夜」の多様な側面について想像を膨らませる貴重な時間となりました。

メンバー 五十音順・敬称略

稲葉 あや香	國學院大学助手
宇野 求	建築家・東京理科大学嘱託教授
押見 匡純	湯島天満宮権宮司
影山 輝國	湯島聖堂 斯文会理事・実践女子大学名誉教授
金井 康子	東京文化資源会議事務局：PM
国広 ジョージ	国士舘大学教授
高 佳音	東京理科大学講師
齋藤 希史	東京大学教授
清水 祥彦	神田明神宮司
対中 秀行	東京復活大聖堂教会主任司祭
張 競	明治大学教授
鳥居 繁	神田明神権禰宜
中島 隆博	東京大学教授
中村 雄祐	東京大学教授
モハメッド ナズィール	アッサラムファンデーション代表理事
サーラサをり ナズィール	アッサラムファンデーション役員
広田 直行	日本大学教授
藤井 恵介	東京大学名誉教授
宮部 亮侑	東叡山寛永寺執事
山崎 繭加	華道家
横山 泰子	法政大学教授
吉見 俊哉	國學院大学教授：座長



趣旨

台東区北部地域に位置する奥浅草は、文化資源の豊富さと様々な生活文化が集まる地域でありながら、地域の文脈が重層的でこれまでまちづくりを積極的に進展することが難しく、多くの課題を抱えている地域である。台東区では現在、旧郵便局小包集配施設の跡地活用を巡って、まちづくりの契機が訪れている。また、近年本地域ではリノベーション型まちづくりが区民の発意で進んでおり、新たな動きも起きている。本プロジェクトでは、こうした状況を踏まえて、台東区北部地域を対象に、これからの奥浅草のまちづくりの展望について検討し、地域の方々との議論を通じてそのビジョンづくりを行う。2024 年にプロジェクトチームとして発足。

座長：小林正美（明治大学名誉教授）

副座長：中村文彦（東京大学特任教授）

本年度の活動記録

フィールドワークの実施

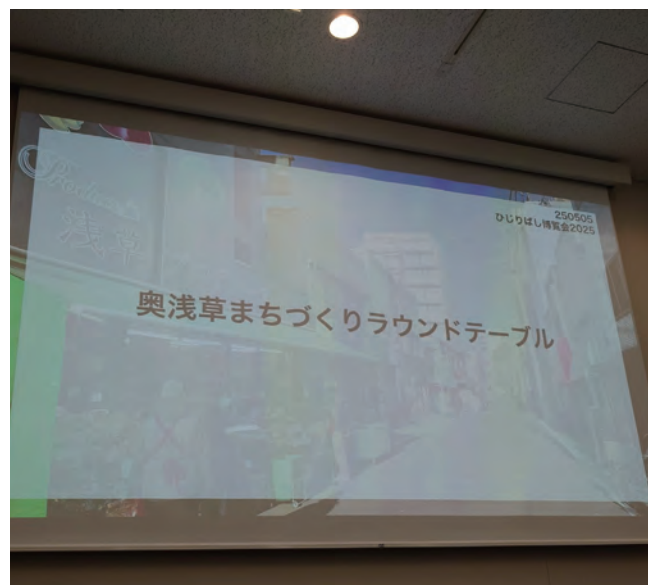
2025 年 2 月 15 日（土）プロジェクトメンバーにて現地フィールドワークを実施した。

ラウンドテーブルの実施

2025 年 5 月 5 日（月・祝）奥浅草まちづくりラウンドテーブル
台東区北部地域を地域で活動するの方々をお招きし、これからの奥浅草のまちづくりの展望について自由闊達に議論した。

登壇者

- ・ 小林一雄（株）メトロ設計
- ・ 田中元子（株）グランドレベル代表
- ・ 野原肇 野原産業取締役会長
- ・ 吉川徹 東京都立大学教授
- ・ 吉見俊哉 國學院大学教授
- ・ 三浦伸也 防災科学技術研究所
- ・ 中島伸 東京都市大学准教授



プロジェクト概要

浅草・銀座・新宿・渋谷……東京には、各時代を象徴するまちがありました。戦後、電気街として復興を遂げた秋葉原は、90年代後半からオタク文化の勃興と共にまちの特異性に注目が集まるようになります。2000年代以降は時代を象徴する街として日本のみならず世界中から人々を引き寄せるようになりました。10年代以降は、大規模な再開発事業が完成し、インバウンド観光客を見据えて複数のホテルが進出してくるなど秋葉原の空間に新しい変化がみられました。また、オタク文化に関連しても、新たなライブエンターテインメントであるe-Sportsに関連する施設が増えたりしています。しかし、まちについてのイメージは、依然として00年代に成立したものを打破できておらず、空間の変化に伴った新たなビジョンも提示されていない印象を受けます。こうした変化の中にあるにも関わらず、まちとして将来を見据えた新たなビジョンが提示できていない状況に対する危機感を持ち、それでも秋葉原が持つポテンシャルを信じて「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトは発足しました。

本プロジェクトでは、秋葉原の「辻」的性質に注目します。江戸時代からの歴史に目を向けると、秋葉原は周囲との深い関係性の中に生まれたまちでした。ヒト、モノ、コト（情報）を通じて周囲の文化が集まってくる交差点、すなわち「辻」として機能しているまちが秋葉原なのです。そこで本プロジェクトでは、地理的にも意味的にも狭義の秋葉原に止まらず、秋葉原と周囲のまちを1つの広域エリア「Greater Akiba（グレートアキバ）／広域秋葉原」として捉え、エリア全体の歴史と現状を踏まえながら、まちの進化と将来像を検討することになりました。秋葉原にある多種多様な文化資源の把握と、それらを生かした新たなまちの未来像の提示を行っていきます。

2024 年度の主な活動

- 2024 年 4 月 5 日 千代田区長とのミーティング
- 2024 年 6 月 7 日 千代田区長とのミーティング
- 2024 年 7 月 5 日 第 3 回「持続可能な秋葉原」研究会
- 2024 年 9 月 6 日 歌舞伎町まち歩き
- 2024 年 10 月 1 日 第 4 回「持続可能な秋葉原」研究会

2024年4月5日 @千代田区役所

秋葉原に関する認識と 今後のアクションについて

広域秋葉原作戦会議

毎月のオンライン定例会議を行っている。約 20 名が参加するチャットグループではほぼ毎日「作戦会議」をしている。そこで各人の活動や広域秋葉原の情報交換をしており、本プロジェクトが活動する屋台骨となっている。

主なメンバーは、庄司昌彦（武蔵大学教授、座長）、菊地映輝（武蔵大学准教授）、井上奈智（近畿大学専任講師、PM）ほか多数

各活動の補足

2024 年 4 月 5 日 千代田区長とのミーティング

本プロジェクトの菊地映輝が発表、そのほか本プロジェクトメンバーが参加

2024 年 6 月 7 日 千代田区長とのミーティング

本プロジェクトの菊地映輝が発表、そのほか本プロジェクトメンバーが参加

2024 年 7 月 5 日 第 3 回「持続可能な秋葉原」研究会：マニアックな同人誌から学ぶインフラ文化資源～万世橋謎施設と秋葉原駅～

スピーカー：庄司昌彦（武蔵大学教授 / 広域秋葉原作戦会議座長）
参加者 13 名（登壇者含む）

2024 年 9 月 6 日 歌舞伎町まち歩き

参加者約 7 名

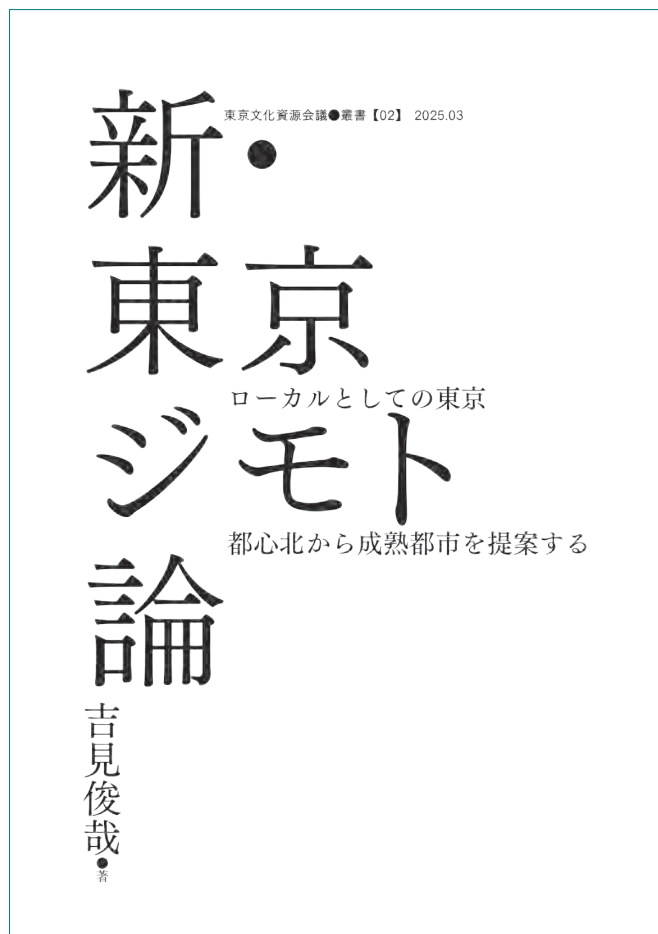
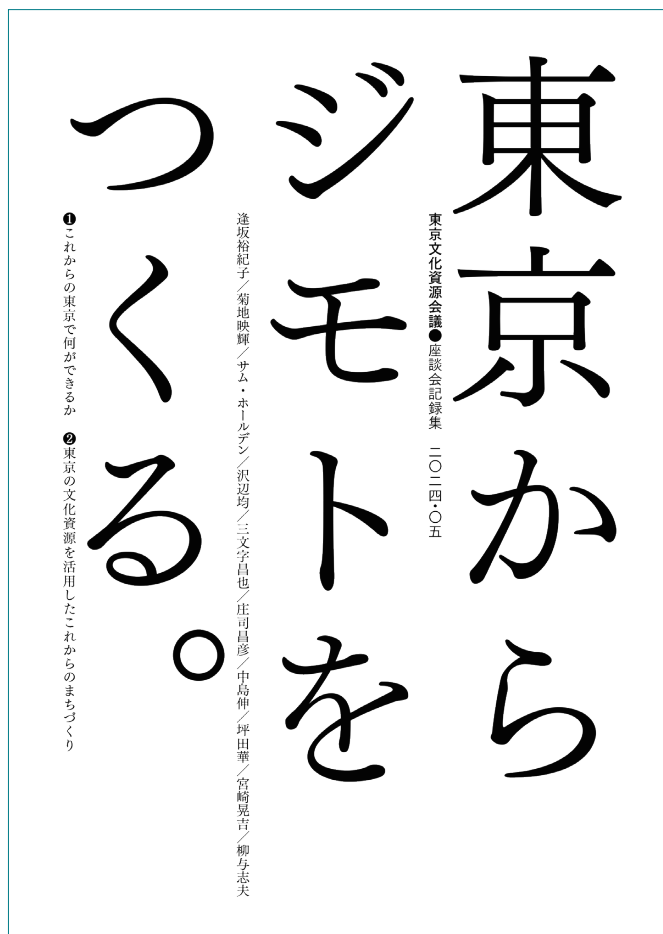
2024 年 10 月 1 日 第 4 回「持続可能な秋葉原」研究会：中国新移民と東京

スピーカー：舩友雄大氏（中国・東南アジア専門ジャーナリスト）
参加者約 20 名



東京文化資源会議のめざす新しい理念を社会に提示することを目的に、2023 年以來商業出版物としての『新東京ビジョン（仮題）』の編集に取り組んできた。そこに収録予定だった懇談会については、本書から分離し、先行的に『東京からジモトをつくる。』という小冊子として出版した（2024 年 5 月）。その後、その編集過程において、書籍としてまとめるよりも、状況変化に合わせてその時にふさわしい問題提起ができ、関係者に手軽に配布できる小冊子のシリーズとして適宜刊行する方が望ましいという結論に達した。

そこで、本書の核をなすジモト論の部分を『新・東京ジモト論』（吉見俊哉著、2025 年 3 月）として発行し、『東京からジモトをつくる。』を第 1 号、『新・東京ジモト論』を第 2 号とする「東京文化資源会議叢書」として立ち上げることとなった。従って今後は当会議がその時々に取り組む社会的課題からテーマを取り上げて、随時発行していく予定である。



ひじりばし博覧会 2024：神保町特集

活動概要

東京文化資源会議の各 PT による活動報告や文化資源区における発掘・保全・利活用を推進していくため、文化資源に関わる様々な取り組みを展示やワークショップなどの体験コンテンツや、セミナー、シンポジウム、そして楽しいお食事コーナーなど、幅広い催しを展開する「ひじりばし博覧会」。

2024 年 5 月 5 日にソラシティカンファレンスセンターを活用し、終日かけて様々な催しを開催しました。会場には多くの参加者や関係者が集まり様々な対話や議論、展示等が行われたイベントとなりました。今年度は、博覧会全体のテーマとして「神保町を夜からはじめる」と題し、文化資源区のなかでも出版や本といった様々な文化資源のある神保町にフォーカスをし、神保町にまつわる様々な催しを企画しました。

博覧会では、基調講演として、編集者・評論家の山田五郎氏をゲストに、「本だけではない神保町」と題した講演をいただきました。古今東西あらゆる文化や都市の魅力について造詣の深い山田五郎氏ならではの視点から、神保町のさらなる面白さについて語っていただき、会場には 200 名近い参加者が集まりました。

総合シンポジウム：夜からはじめる神保町では、東京文化資源会議がこの立ち立ち上げた「神保町の夜からはじめる」プロジェクトで取り組もうとしていること、神保町の課題等についての報告後、

神保町のさらなる発展の可能性について論議するシンポジウムを開催しました。

また、学生研究発表として、専修大学、共立女子大学、明治大学など、神保町近隣の大学生らによるそれぞれの視点から、神保町の新たな楽しみ方や可能性について発表いただき、エントランスでは明治大学の学生らによる神保町交差点に建つ出版社ビル設計展示も行いました。

他、対談：「本の町 神保町を極める！」や座談会：「神保町未来形 — これからの担い手が語る」、学生選書コーナーなど、出版文化や神保町の文化資源について議論や対話を重ねる企画が目白押しで、神保町の多様な文化資源にまつわる様々な学びや理解を深める一日となりました。

- ・ ひじりばし博覧会 2024 in ソラシティカンファレンスセンター
- ・ 日時：2024 年 5 月 5 日（日）12 時～19 時半
- ・ 場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区神田駿河台 4-6）
- ・ 入場料無料
- ・ 当日、出入り自由（一部企画は事前予約制あり）
- ・ テーマ：神保町を夜からはじめる
- ・ 主催：東京文化資源会議
- ・ 共催：sola city Conference Center
- ・ 後援：千代田区、本の街・神保町を元気にする会、読売新聞社



各プログラムの企画タイトルおよび概要

講演会：山田五郎氏「本だけではない！神保町の楽しみ方」

基調講演：山田五郎氏

総合シンポジウム：夜からはじめる神保町

基調報告

「神保町の夜からはじめるプロジェクト」趣旨と概要

柴野京子（上智大学教授）

パネリスト

柴野京子（上智大学教授）

高林孝行（東陽堂社長）

中島伸（東京都市大学准教授）

前田拓郎（弁護士）

司会：吉見俊哉

学生研究発表：神保町をこう変える

専修大学、共立女子大学、明治大学

対談：「本の町 神保町を極める！」

登壇者

・小林昌樹（近代出版研究所所長）

・大尾侑子（東京経済大学准教授）

座談会：「神保町未来形 ― これからの担い手が語る」

登壇者（敬称略）

・大内学（書泉グランデ店次長）

・大矢靖之（文芸春秋社マーケティング総局営業推進部）

・小栗山美紀（日本酒バル terra 女将）

・カラサキ・アユミ（古本収集家・漫画家）

・草薙彩音（共立女子大学助教）

・森川嘉一郎（明治大学准教授）

・司会：玉置泰紀（角川アスキー総合研究所エリア LOVE ウォーカー総編集長）

エントランス

学生選書コーナー

神保町交差点に建つ出版社ビル設計展示（明治大学学生作品）

協力ホテル特製のフード各種のご提供（飲食提供）

ノーガホテル 上野 東京 = 味噌パウンドケーキ

ノーガホテル 秋葉原 東京 = NOHGA レモンサワー、レモンスカッシュ

庭のホテル 東京 = 特製サンドウィッチ

レピック = ボルドーワインとパン

大勝軒 branching = カレーパン



ひじりばし博覧会 2025：神保町特集

活動概要

東京文化資源会議の各 PT による活動報告や文化資源区における発掘・保全・利活用を推進していくため、文化資源に関わる様々な取り組みを展示やワークショップなどの体験コンテンツや、セミナー、シンポジウム、そして楽しいお食事コーナーなど、幅広い催しを展開する「ひじりばし博覧会」。

2025 年 5 月 5 日にソラシティカンファレンスセンターを活用し、終日かけて様々な催しを開催しました。会場には多くの参加者や関係者が集まり様々な対話や議論、展示等が行われたイベントとなりました。今年度は、昨年度の神保町のテーマを引き継ぎ、博覧会全体のテーマとして「神保町未来ビジョン」と題し、文化資源区のなかでも出版や本といった様々な文化資源のある神保町にフォーカスをし、神保町にまつわる様々な催しを企画しました。

博覧会は、メインコンテンツとして、「食の魅力神保町：井之頭五郎ならどこに行く？」神保町食文化に関する鼎談と題し、食文化のプレモダン（江戸）とモダン（東京）が接続する神田神保町の食文化の魅力とこれからの街のあり方について、マンガ家『孤独のグルメ』原作者の久住昌之氏、文化政策研究者の太下義之氏、『おさんぽ神保町』編集長の石川恵子氏ら神保町の食に詳しい 3 人が語り合いました。

総合シンポジウム：「神保町未来ビジョンの実現に向けて」では、東京文化資源会議が、文化資源を活用した今後の日本の新しい都市モデルとなりうる神保町に注目し、その実現をめざすための 10 年計画「神保町未来ビジョン」を策定しました。それらの実現にあ

たり、本シンポジウムではビジョンの概要を紹介するとともに、様々な分野・立場の関係者にお集まりいただき、実現に向けての方策を話し合いました。

また、新たな試みとして、神保町プロジェクトの一環として、近年盛り上がりを見せる Zine 文化にフォーカスした「神保町 Zine Fair in ひじりばし博覧会 2025」を開催。本の町・神保町に個人や同人で作る小出版を通して交流の場を作ることを目的に、ジャンルを問わず創作作品や研究成果などの出版物の出版を楽しむ場を構築し、さまざまな個人出版や創作の方たちの出展ブースで賑わいを見せました。あわせて、Zine 制作ワークショップも実施し、Zine を実際に作る機会も提供しました。

他にも、トークイベント「神保町女子会 ― もっともっと面白い街へ」や、座談会「古本文化を楽しむ——神保町 vs 中央線」、神保町まちづくり学生発表会の設計展示や神保町まちづくり学生発表会、ラウンドテーブル「大学はもういらない!? ― 神保町から新たな〈塾〉文化を考える」など、神保町を取り巻くさまざまなテーマを軸とした企画が展開されました。

他、文字・活字文化推進機構主催による「連続朗読会～文学作品を通じて巡る神保町～」、シンポジウム「首都東京は世界的な観光防災都市になれるのか」（企画：水都東京・未来会議）といった関連団体による企画の実施。多種多様な企画で終日賑わいをみせたイベントとなりました。神保町が持つ多様な文化資源を新たに活かした試みをもとに、これからの新たな可能性を感じる一日となりました。



- ・ ひじりばし博覧会 2025 in ソラシティカンファレンスセンター
- ・ 日時：2025 年 5 月 5 日（月）10 時～ 20 時 30 分
- ・ 場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
（東京都千代田区神田駿河台 4-6）
- ・ 入場料無料
- ・ 当日、出入り自由（一部企画は事前予約制あり）
- ・ テーマ：神保町未来ビジョン
- ・ 主催：東京文化資源会議
共催：sola city Conference Center
後援：千代田区、神保町文化発信会議（仮）、
協賛：住友商事、日鉄興和不動産、三菱地所、読売新聞社
協力：野村不動産ホテルズ株式会社
ノーガホテル 上野 東京
ノーガホテル 秋葉原 東京
庭のホテル 東京

各プログラムの企画タイトルおよび概要

Jimbocho Zine Fair in ひじりばし博覧会 2025

Zine 制作ワークショップ「FANZINE を作ってみよう！～初めての ZINE ワークショップ～」

「食の魅力神保町：井之頭五郎ならどこに行く？」神保町食文化に関する鼎談

マンガ家『孤独のグルメ』原作者：久住昌之氏
文化政策研究者：太下義之氏
『おさんぽ神保町』編集長：石川恵子氏



総合シンポジウム：「神保町未来ビジョンの実現に向けて」

(1) 「神保町未来ビジョン」の概要

加藤聡（大阪大学特任研究員）

(2) パネルディスカッション

久保金司（NPO 法人神田学会副理事長）

高山肇（高山書店代表）

佐伯徳彦（経済産業省文化創造産業課長）

柴野京子（上智大学教授）：司会

樋口高顕（千代田区長）

柳与志夫（東京文化資源会議神保町を夜からはじめるプロジェクト座長）

吉山太朗（三井不動産開発企画部上席統括）

トークイベント「神保町女子会 — もっともっと面白い街へ」

登壇者

今本義子（ブックハウスカフェ社長）

杉山佳世子（肆yon オーナー）

廣瀬弘子（廣瀬與兵衛商店オーナー）

玉置泰紀（エリア LOVE ウォーカー総編集長）：司会

座談会「古本文化を楽しむ——神保町 vs 中央線」

ゲスト

大尾侑子（東京経済大学准教授）

切通理作（ネオ書店店主）

小林昌樹（近代出版研究所所長）

スーザン・テイラー（神保町研究者）



神保町まちづくり学生発表会

ゲスト

明治大学理工学部建築学科

日本大学理工学部建築学科

共立女子大学家政学部建築・デザイン学科

神保町まちづくり学生発表会の設計展示

ラウンドテーブル「大学はもういない!? ― 神保町から新たな〈塾〉文化を考える」

登壇者

加藤聡（大阪大学特任研究員）：司会

吉田恭子（東京文化資源会議）

石原楓（専修大学植村ゼミ学生）

荒木優太（在野研究者）

菊地映輝（武蔵大学准教授）

椎原晶子（國學院大学教授、たいとう歴史都市研究会理事長）

谷島貴太（二松学舎大学准教授）

玉川博章（日本大学等非常勤講師）

福地史人（月花舎オーナー）

吉見俊哉（東京文化資源会議会長）

文字・活字文化推進機構主催「連続朗読会～文学作品を通じて巡る神保町～」

シンポジウム「首都東京は世界的な観光防災都市になれるのか」

（企画：水都東京・未来会議）

フード各種のご提供 @ 屋外（飲食提供）

ノーガホテル 上野 東京

ノーガホテル 秋葉原 東京

庭のホテル 東京

シディーク

スパイスプラネット

ミカバインミー

関連企画：神保町ナイトウォーク（5/14 開催）



2024 年度東京文化資源会議一般会計収支報告（2025 年 3 月 31 日時点）

東京文化資源会議一般会計収支報告（2025年3月31日現在）

収入の部				
費目	内訳	予算	収入	差額
前年度繰越金		7,700,000	7,706,445	6,445
会費	一般賛助会員会費	7,000,000	2,700,000	▲ 300,000
	特別賛助会員会費		4,000,000	
	本会員会費	180,000	186,000	6,000
神保町夜学（飲食費実費）	Peatix利用		27,554	27,554
プロジェクトチーム交付金返還金			105,956	105,956
利子			1210	1,210
総計		14,880,000	14,727,165	▲ 152,835

支出の部				
費目	会場費	予算	支出	差額
事務局運営費	事務所賃料（光熱水道費を含む）	360,000	362,640	▲ 2,640
	備品等購入費	50,000	36,260	13,740
	スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	3,000,000	2,653,520	346,480
	事務作業委託費	800,000	236,375	563,625
	交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	300,000	257,753	42,247
	総会開催経費	300,000	84,810	215,190
	小計	4,810,000	3,631,358	1,178,642
イベント開催費	ひじりばし博覧会2024運営経費	1,500,000	1,343,108	156,892
	崖東夜話実施経費	300,000	74,290	225,710
	その他シンポジウム等開催の講師謝金、運営経費、会場費等	700,000	0	700,000
	小計	2,500,000	1,417,398	1,082,602
プロジェクトチーム等運営費	神保町プロジェクト実施経費	2,500,000	1,746,739	753,261
	その他プロジェクトチーム等運営費	500,000	122,340	377,660
	会場費	200,000	44,291	155,709
	小計	3,200,000	1,913,370	1,286,630
広報普及費	既存出版物増刷費	100,000	22,770	77,230
	パンフレット・チラシ等編集・作成費	400,000	311,134	88,866
	ニューズレター制作費（2号分）	400,000	325,600	74,400
	ホームページ運用費	50,000	13,660	36,340
	広報業務支援委託費（ニューズレター編集等）	550,000	550,440	▲ 440
	広報媒体費（PRタイムズ他）	500,000	171,600	328,400
	書籍編集・刊行費	2,000,000	502,200	1,497,800
	小計	4,000,000	1,897,404	2,102,596
その他諸経費（会計監査謝金等）		100,000	88,266	11,734
予備費		270,000		270,000
総計		14,880,000	8,947,796	5,932,204

収支差額				
2024年度繰越金額			5,779,369	

2024 年度東京文化資源会議特別会計収支報告（2025 年 3 月 31 日時点）

東京文化資源会議特別会計 1 収支報告（2025年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		89,132
利子		39
総計		89,171

支出の部

費目	内訳	支出
なし		0
総計		0

収支差額

2024年度繰越金額		89,171
------------	--	--------

東京文化資源会議特別会計2収支報告（2025年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		1,225,098
協賛金	4社	2,500,000
借入金		9,372,643
利息		3,927
観光庁補助金		6,689,825
総計		19,791,493

支出の部

費目	内訳	支出
IB法人手数料	1,100 × 12ヶ月	13,200
返済金		9,468,000
神保町プロジェクト事業費		9,711,831
総計		19,193,031

収支差額

2024年度繰越金額		598,462
------------	--	---------

東京文化資源会議 2024 年度会計監査報告

東京文化資源会議 2024 年度会計監査報告

2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2025 年 4 月 24 日

東京文化資源会議

監事 小林 一雄 

2025 年度 東京文化資源会議事業計画

1 神保町プロジェクトの推進

一昨年（2023 年）立ち上げた「神保町の夜からはじめる」プロジェクトを推進する。昨年定めた「神保町未来ビジョン」を指針とし、同じく昨年発足した「神保町文化発信会議」と連携しながら、新しいナイトライフの充実を通して「文化資源で暮らせる、生活・仕事・遊びと学びの街」のモデルを神保町で実現し、全国の歴史的な地方都市あるいは都市の昼間の暮らしにも波及させる。具体的には下記の取組を行なう。

- ① 「神保町未来ビジョン」シンポジウムの開催（in ひじりばし博覧会 2025）
- ② 推し本夜話の本格実施
- ③ 神保町夜学の継続（月 1 回）
- ④ 神保町 zine フェスティバルの実施（2016 年 1 月予定）：補助金の獲得が前提
- ⑤ 神保町ナイトウォークの本格実施
- ⑥ 神保町出版流通セミナーシリーズ（仮称）の開催
- ⑦ 神保町整備構想の策定と具体的対応策の実施
- ⑧ 神保町夜市実施に向けた協力
- ⑨ 「神保町アート資源マップ（仮称）」の作成と関連団体との連携の場設定
- ⑩ 第 3 回神保町シンポジウム（神保町文化発信会議との共催）の開催

2 各プロジェクト等における活動

- ① トーキョートラムタウン構想 PT・台東北部整備構想特別 PT
- ② 湯島神田上野社寺会堂研究会
- ③ 広域秋葉原作戦会議 PT
- ④ 上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）
- ⑤ 本郷のキオクの未来 PT
- ⑥ 神田まちづくり懇談会
- ⑦ スポーツ文化資源 PT

3 広報普及活動

- (1) 『T-Cha』(年 2 回) 及び年報の発行
- (2) 「東京文化資源会議叢書」第 3 号・第 4 号の発行
- (3) 「ひじりばし博覧会 2025」の開催（5 月 5 日）
- (4) 社寺会堂研究会共同イベント「崖東夜話第六夜」の実施（10 月）
- (5) 神保町ホームページの活用
- (6) 神保町広報書籍の発行

4 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

5 その他当会議の目標を達成するために必要な事業

東京文化資源会議 2025 年度収支計画

○ 一般会計収入

前年度繰越金	577 万円
本会員会費（団体・個人）	18 万円（内訳：3,000 円× 60 件）
賛助会員会費	640 万円（内訳：50 万円× 8 社+ 30 万円× 8 社）
	計、1235 万円

○ 一般会計支出

事務局運営費	481 万円	
事務所管理費（光熱水道費を含む）	3 万円× 12 か月 = 36 万円	
備品等購入費	5 万円	
スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	330 万円	
事務作業委託費	60 万円	
交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	30 万円	
総会開催経費（年報編集刊行費等）	20 万円	
イベント開催費	210 万円	
ひじりばし博覧会 2025 運営経費	160 万円	
崖東夜話実施経費	20 万円	
その他シンポジウム等開催の講師謝金、運営経費、会場費等	30 万円	
プロジェクトチーム等運営費	300 万円	
神保町プロジェクト実施経費	250 万円	
その他プロジェクトチーム等運営費	10 万円× 3 グループ = 30 万円	
会場費	20 万円	
広報普及費	220 万円	
既存出版物増刷費	10 万円	
書籍編集・刊行費	40 万円	
パンフレット・チラシ等編集・作成費	40 万円	
ニュースレター制作費（2 号分）	40 万円	
ホームページ運用費	5 万円	
広報業務支援委託費（ニュースレター編集等）	55 万円	
広報媒体費（PR タイムズ他）	30 万円	
その他諸経費（会計監査謝金等）	10 万円	
予備費	14 万円	
		計、1235 万円

○ 特別会計2収入

前年度繰越金	60 万円
観光庁補助金事業協賛金	150 万円（内訳：50 万円× 3 件）
観光庁補助金	540 万円
	計、750 万円

○ 特別会計2支出

観光庁補助金事業経費	700 万円
（地域観光魅力向上事業・神保町プロジェクト）	
予備費	50 万円
	計、750 万円

東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

(平成 28 年 5 月 9 日確定)

(名称)

第1条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第3条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる4者（以下単に「4者」という。）をもって構成する。

(1) 千代田区

(2) 文京区

(3) 台東区

(4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第4条 本協議会の運営方針は、4者の協議によって決定する。

(事務所)

第5条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目1番地に置く。

(会議)

第6条 本協議会の会議は、4者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第7条 4者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4者で別途協議する。

(規約の改定)

第8条 本協議規約の改定は、4者の合意をもって行う。

(事務局)

第9条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

東京文化資源会議 役員名簿

2025 年 5 月 31 日現在

会長	吉見俊哉（國學院大学教授）	
顧問	青木保（元国立新美術館館長）	青柳正規（多摩美術大学理事長）
	伊藤滋（東京大学名誉教授）	相賀昌宏（小学館会長）
	小倉純二（日本サッカー協会最高顧問）	金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）
	御厨貴（東京大学名誉教授）	
幹事	新雅史（流通科学大学講師）	太下義之（東京芸術大学客員教授）
	小野道生（㈱都市計画設計研究所取締役）	宇野求（東京理科大学嘱託教授）
	片桐由希子（金沢工業大学准教授）	栗生はるか（(一社) せんとくとまち代表理事・文京建築会ユース代表）
	小泉秀樹（東京大学教授）	小林洋志（千代田中央文化交流推進機構事務局長）
	小林正美（明治大学名誉教授）	沢辺均（ポット出版社長）
	椎原晶子（國學院大学教授）	島裕（帝京大学教授）
	庄司昌彦（武蔵大学教授）	数藤雅彦（弁護士）
	玉置泰紀（角川アスキー総合研究所エリア LOVE ウォーカー総編集長）	
	田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役）	中島伸（東京都市大学准教授）
	中島直人（東京大学教授）	中村雄祐（東京大学教授）
	濱口博行（東アジアサッカー連盟 CFO・広島経済大学教授）	
	福島幸宏（慶応義塾大学准教授）	ホルヘ アルマザン（慶応義塾大学教授）
	宮本聖二（立教大学客員教授）	三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会代表）
	山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟事務局長）	
	吉本光宏（合同会社文化コモンズ研究所代表）	
監事	小林一雄（メトロ設計㈱代表取締役）	
事務局長	柳与志夫（東京大学特任教授）	

東京文化資源会議 賛助会員（一般・運営・名誉）リスト（50音順）

2025年3月31日現在

<一般賛助会員>

1. NTT都市開発(株)
2. 講談社
3. (株)JTB
4. 集英社
5. (株)東京ドーム
6. TOPPAN(株)
7. (株)松下産業
8. (株)ムラヤマ

<運営賛助会員>

1. 住友商事(株)
2. (株)大丸松坂屋百貨店
3. (株)竹中工務店
4. 日鉄興和不動産(株)
5. 野村不動産(株)
6. 三井不動産(株)
7. 三菱地所(株)
8. 安田不動産(株)

<名誉賛助会員>

- (株)池之端藤井

東京文化資源会議 規約 (2023 年 4 月 1 日発効)

(平成 27 年 2 月 23 日設立)

(名称)

第1条 本会を、東京文化資源会議と称する。

(事務所の所在地)

第2条 本会事務所は、東京都台東区上野 2 の 11 の1藤井ビル 3 階に置く。

(目的)

第3条 本会は、主に上野、本郷、谷根千、神保町、秋葉原、神田、根岸等の特色ある文化を保有する地域を中核とした上野寛永寺から旧江戸城に至る東京都心北部（東京文化資源区）一帯に江戸期以降現代まで集積された日本文化の所産、即ち文化資源を地域特性に応じて整備（renovate）し、我が国文化芸術学術の拠点として、世界的な創造都市東京の中核とする構想（東京文化資源区構想）の推進を目的とする。

2 本会の活動期間は令和 5 年（2023 年）4 月から令和 10 年（2028 年）3 月までとし、延長する場合は改めて活動期間を定める。

(会員)

第4条 本会は、前条の目的に賛同する法人、団体又は個人をもって構成する。

2 本会の会員は、前条の目的推進のため自ら主体的に活動する本会員、本会の活動を賛助する賛助会員（運営賛助会員及び一般賛助会員）及び特別会員とする。

(役員)

第5条 本会は、総会により選任される次の役員を置く。

顧問若干名、会長、幹事若干名、事務局長（会計担当）、監事

2 本会の常務は、各役員が単独で執行することができる。

(会費)

第6条 本会の会費は、次のとおりとし、各年度分を当該年度5月末迄に支払うこととする。

本会員 年額 3,000 円

賛助会員

運営賛助会員 年額 500,000 円

一般賛助会員 年額 300,000 円

特別会員 無償

(総会)

第7条 本会の総会は、会員全員で組織する。

2 会長は、毎年 5 月に定期総会を招集しなければならない。会長は、必要と認めるときは、臨時総会を招集することができる。

3 次の各号に掲げる事項は、総会の議決を得なければならない。

(1) 収支の決算及び予算

(2) 多額の借入れ、重要財産の譲渡など本会に重大な影響を与えるおそれのある行為

- 4 総会の議長は、会長がこれに当たることとし、会長に事故あるときは、総会において決する。
- 5 総会は、会員の過半数が出席しなければ開くことができない。議事は、特別の定めがある場合を除き、出席会員の過半数をもって決する。議決権の行使は、電子メール等の電磁的方法を含む。
- 6 会員は、それぞれ一個の議決権を有する。
- 7 総会の議長は、議事録を作成しなければならない。

（役員会）

第8条 本会の役員会は、会長がこれを必要と認めた場合に開催する。

（会計）

第9条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年の3月31日までとする。

（その他）

第10条 本会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則 この規約は、令和5年（2023年）4月1日より施行する。



東京文化資源会議 2025 年度 年報

発行日 2025 年 7 月 1 日

発行者 東京文化資源会議（編集：真鍋陸太郎）

〒110-0005 台東区上野 2-11-1 藤井ビル 3 階

TEL: 03-5244-5450 WEB: <https://tcha.jp/>

